

平成30年度 病害虫防除資材計画並びに防除計画

村上市病害虫防除協議会神林支部

※成分回数は、化学合成農薬の成分回数。

区分	病害虫名	防除時期	防除形態	農薬名		成分回数	使用量	防除 (使用上) の注意事項					
				温湯消毒	テカリートフロアブル			雑菌がつかないよう保管する。	塗末作業は、薬液が均一に付着するようによく攪拌する。 ・塗末処理後は、風乾とする。 ・薬液は種子量の容量で1.5倍量とする。 ・残液は刈りや池に流さない。 ・24時間浸漬し、この間2~3回攪拌する。 ・薬液の温度は10℃以下にしない。 ・消毒後は薬液内で揺り動かしてから引き上げ、水洗いしないで浸漬に移す。				
種 別	※使用農薬は種別 10kg に対する使用量とする。	3月下旬~4月上旬	個人 JA種子 個人(もち米・飼料用米生産者)	育苗箱の消毒 イチバン	500 ~ 1,000 倍	1	40ml (水260ml・7.5倍) 100ml (水20l・200倍)	雑菌がつかないよう保管する。	塗末作業は、薬液が均一に付着するようによく攪拌する。 ・塗末処理後は、風乾とする。 ・薬液は種子量の容量で1.5倍量とする。 ・残液は刈りや池に流さない。 ・24時間浸漬し、この間2~3回攪拌する。 ・薬液の温度は10℃以下にしない。 ・消毒後は薬液内で揺り動かしてから引き上げ、水洗いしないで浸漬に移す。				
								育苗箱の消毒	タチカレン 粉剤 (フザリウム)	120g/20箱 (6g/箱)	・細菌性病害対策には、カスミン粒剤を覆土に箱当たり20gを混和する。 ・耐性菌の発生を助長する恐れがあるので、ハトムス催芽機へのカスミン液剤の加用は行わない。 ・カスミン液剤を使用する場合は、播種後覆土前に、4倍液を箱当たり50mlかん注する。 ・床土混和及び播種時覆土前から移植当日の処理が可能で省力化できる。 ・7月中旬まで、ウンカ類を含む幅広い害虫への残効が期待できる。 ・カメムシ類まで効果がある殺虫剤である。床土混和できない。 ・いちもち病対策用の混和剤は「ロングリー」手箱粒剤「カある。資材単価が高価である。 ・いちもち病、紋枯病、害虫をまとめて予防。播種時から移植当日までに処理する。 ・前年度、紋枯病が多発生した場合は、予防のために使用する。 ・中干し後、被害が少なくなるため、中干しまでの期間が長い場合に散布する。 ・林地や雑草地や小麦畑周辺で発生しやすい。 ・カメムシ多発が懸念される際は、一斉防除と組み合わせた計画を立てる。 ・前年度、紋枯病が多発生した場合はリソバール粒剤を散布しない場合使用する。 ・散布に際しては、落水して株元や葉鞘に薬剤が十分付着するようにする。 ・必ず灌水状態(水深3cm以上)で均一散布、散布後少なくとも3~4日間は、かけ流し、落水しない。 ・出穂10日前。前年度、多発生した場合は再度発生するおそれがあるので予防的に散布する。 ・発病した場合に使用する。		
育 苗	イネトロオイムシ、イネミヌカ類、ウンカ類、ツラグロコバハ、ニカメイチュウ 葉いちもち、紋枯病、イナゴ類、ウンカ類、イネミヌカ類、ウンカ類、イネトロオイムシ、ニカメイチュウ イネトロオイムシ ニカメイチュウ第一世代 カメムシ類、イナゴ 紋枯病	5月上旬~中旬 5月上旬~中旬 6月上旬~中旬 6月下旬 7月中旬 7月上旬~中旬	個人 個人 個人 個人 個人 個人 個人 個人 個人 個人	フェルテラ箱粒剤 スターダム箱粒剤 エバーグリーンオルテ箱粒剤 トシボン粉剤 DL スミチオン粉剤 3DL スタークル粉剤 DL リソバール粒剤 モンカッタフアイン粉剤 20DL バリアジン粉剤 DL モンカッタ粉剤 Zボルトー粉剤 DL フレンジン粉剤 DL トライ粉剤 DL	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1kg/20箱 (50g/箱) 1kg/20箱 (50g/箱) 3kg/10a 3kg/10a 3~4kg/10a 3~4kg/10a 3~4kg/10a 3~4kg/10a 3~4kg/10a	1	1kg/20箱 (50g/箱) 1kg/20箱 (50g/箱) 3kg/10a 3kg/10a 3~4kg/10a 3~4kg/10a 3~4kg/10a 3~4kg/10a 3~4kg/10a	・細菌性病害対策には、カスミン粒剤を覆土に箱当たり20gを混和する。 ・耐性菌の発生を助長する恐れがあるので、ハトムス催芽機へのカスミン液剤の加用は行わない。 ・カスミン液剤を使用する場合は、播種後覆土前に、4倍液を箱当たり50mlかん注する。 ・床土混和及び播種時覆土前から移植当日の処理が可能で省力化できる。 ・7月中旬まで、ウンカ類を含む幅広い害虫への残効が期待できる。 ・カメムシ類まで効果がある殺虫剤である。床土混和できない。 ・いちもち病対策用の混和剤は「ロングリー」手箱粒剤「カある。資材単価が高価である。 ・いちもち病、紋枯病、害虫をまとめて予防。播種時から移植当日までに処理する。 ・前年度、紋枯病が多発生した場合は、予防のために使用する。 ・中干し後、被害が少なくなるため、中干しまでの期間が長い場合に散布する。 ・林地や雑草地や小麦畑周辺で発生しやすい。 ・カメムシ多発が懸念される際は、一斉防除と組み合わせた計画を立てる。 ・前年度、紋枯病が多発生した場合はリソバール粒剤を散布しない場合使用する。 ・散布に際しては、落水して株元や葉鞘に薬剤が十分付着するようにする。 ・必ず灌水状態(水深3cm以上)で均一散布、散布後少なくとも3~4日間は、かけ流し、落水しない。 ・出穂10日前。前年度、多発生した場合は再度発生するおそれがあるので予防的に散布する。 ・発病した場合に使用する。				
										地上	スタークル粉剤 DL	3kg/10a	コシヒカリ
										地上	スタークル液剤 10	800ml/10a	コシヒカリ
										地上	フレンジントツク粉剤 DL	4kg/10a	コシヒカリ
										地上	フレンジントツク粉剤 DL	4kg/10a	コシヒカリ
										地上	スタークル粉剤 DL	3kg/10a	コシヒカリ
										地上	スタークル液剤 10	800ml/10a	コシヒカリ
										地上	MR.ジヨーカー粉剤 DL	3~4kg/10a	コシヒカリ
										地上	MR.ジヨーカー粉剤 DL	3~4kg/10a	コシヒカリ
										地上	MR.ジヨーカー粉剤 DL	3~4kg/10a	コシヒカリ
その他	カメムシ類 野ねずみ駆除	7月下旬 11月上旬~下旬 3月中旬~4月上旬	個人 個人 個人	MR.ジヨーカー粉剤 DL メリーネコリン化亜鉛	1 1 1	1	50g/10a	公共用地	期間内に農家の薬剤を散布。 ・1穴10粒を入れる。散布はビニール手袋を使用する。				
								公共用地	期間内に農家の薬剤を散布。 ・1穴10粒を入れる。散布はビニール手袋を使用する。				

【注意事項】

1. コシヒカリ BL は3割減産や特別栽培米で流通しているため、使用薬剤及び使用回数には十分ご注意ください。
2. コシヒカリ BL 以外のいちもち病防除については、一斉防除の他に、育苗箱等に殺菌剤を散布してください。
3. 高品質の岩船米を目指し、病害虫の発生が確認されたら、JAかみはやしや農業普及指導センター等の指導機関に相談してください。
4. 一斉防除時の農薬は、神林地区病害虫防除協議会で準備します。他からの購入はしないでください。
5. 農薬の安全使用基準を遵守しましょう。(表示をよく読みましょう)